

# スポーツ川崎

川崎市体育協会  
 紙報  
 第6号  
 編集・発行  
 川崎市体育協会  
 委員会  
 電話 200-3312  
 印刷所  
 (株)第一サンエー  
 電話 222-2356

より速く      より強く      より高く



この賞は、著名な体育スポーツ大会で優秀な成績をおさめた方を「優秀選手」「優秀チーム」として体育協会が表彰するもので、今回の授与式は去る4月30日産業文化会館で開催された体育協会の総会の席で中野副会長から手渡されました。また賞状と共に魚津賞(ブロンズ)が贈られました。この魚津賞は軟式

## 受賞おめでとうといえます 昭和56年度「優秀選手賞」

庭球の発展に功績があった故魚津利氏のご芳志のもとに設けられ、昭和53年より実施されています。今回の受賞者は次の方々であります。今後のますますのご活躍をお祈りするものであります。

### 個人の部

太田 守久  
 (全国高校相撲東西対抗大会重量級優勝)

河合 温  
 (全日本卓球選手権大会中学の部第3位)

赤羽 芳彦  
 林 喜代次  
 (全日本軟式卓球選手権大会男子ダブルス優勝)

### 団体の部

県立向の岡工業高校相撲チーム  
 (全国高等学校総合体育大会相撲競技第3位)

法政大学第2高等学校ハンドボールチーム  
 (全日本高等学校ハンドボール選手権大会第3位)

富士電機川崎女子バレーボールチーム  
 (全日本9人制総合女子選手権大会第3位)

日本鋼管サッカーチーム  
 (天皇杯サッカー選手権大会優勝)

東芝サッカーチーム  
 (第6回JSLカップ選手権大会優勝)

(敬称省略)

## 席 野 外

六月末に全日本剣道連盟主催の青少年剣道指導者講習会が開催された。

その時ある講師より最近の少年剣道のあり方「特に各種少年剣道大会」が多すぎると云う強い発言があった。これは剣道を学ぶ者は長い歳月をかけて、基本をしっかりと身につけてから、試合に参加して勝敗を競うのが本筋であり、目的はあくまで「剣の理法の修練による人間形成の道である」と剣道の理念で示されている通り、まだ剣の理法による気・剣・体一致の修練が未熟でありながら試合に出場して、竹刃による当てこの技でも勝負に勝るとなれば、当てる剣道が普及し、基本を軽視するなど将来の剣道が乱れて来るのではないかと危惧しているものであった。

### 川崎市体育協会

## 57年度予算八百四十六万円で 各種事業の遂行を決定!!

- 今年度体育協会の総会は、去る4月30日午後3時より、市立産業文化会館に於いて、22種目代表役員が参加して行われた。次の通り各種事業とそれに伴う決算が報告され、全会一致で承認された。
- 一、各種市民大会
    - ①春季各種目大会
    - ②市制記念各種目大会
    - ③秋季各種目大会
    - ④冬季各種目大会
  - 二、スポーツ少年団の育成
    - ①リーダー研修会
    - ②体力テストの開催
    - ③日本本部の少年団委託育成実験事業指定
    - ④指導者研修会の開催
  - 三、スポーツ普及活動
    - ①学童泳力記録会
    - ②体育の日記念事業
    - ③市民祭への協力
    - ④少年サッカー大会
  - 四、各種体育大会派遣事業
    - ①県総合体育大会
    - ②全国都市対抗庭球大会
    - ③都市対抗駅伝大会
    - ④三浦半島駅伝大会
    - ⑤国民体育大会
  - 五、「スポーツ川崎」発行
    - 56年度は第3・4・5号を発行したが、今年度も年三回発行が決定
  - 六、その他
    - ①国体に二名の視察員を派遣した。これらの諸事業の決算は、加盟団体の分担金と県市補助金、委託金合計で約775万円であったが今年度は市補助金の増額によって、846万円の予算決定が報告され、これに伴う諸行事も前年同様各種目協力を約し、役員も一部を除き、三役は全員留任した。

### 川崎市体育協会 加盟団体の紹介(第五回) 軟式庭球協会

川崎市における当協会の歴史は古く、昭和初期、各会社、工場のスポーツ熱が盛んになり、軟式庭球も、マツダランプ、日本鋼管、富士電機、昭和肥料、富士製鉄等の実業団と、病院や、教育関係者等のクラブが、対抗試合を行っていた。昭和6年頃、故古沢米作(運動具店主)塩川宗一(運動具店主)両氏が世話人となり、市当局学事課長(現教育委員会)故風巻義雄(元教育委員長)に協会設立案を提出し、同学事課長の下、協会が設立された。初代会長には、当時の助役、横山三佐次氏が就任し、コロムビア、東京電力等の参加を得、益々軟式庭球熱は隆盛を見たが、支那事変・大平洋戦争等で、多くのスポーツ選手も出征され体育

団体も自然消滅となった。終戦後昭和22年に第1回市民総合体育大会が開催され、25年頃より参加組数も増え、27年には富士見庭球場が完成し、コート開きには、関東軟式庭球大会が7月4、6日迄開かれ、軟式庭球熱は、益々盛んになった。その後、国体関東予選、東日本選手権大会等数多くの試合が、富士見、等々力両庭球場を使用し、行なわれている。

なお、市協会の主管大会として、春秋の市民大会・市制記念大会・チーム対抗・BC級大会・女子年令別大会等を開催し、中学46、高校23、社会団体65と云う参加団体数を数え、年々増加の傾向にある。協会としても初心者講習会等積極的な活動を続けている。

協会事務局  
〒210川崎区堤根37  
昭和薬品工業株式会社内  
(244) 4521

昭和22年に新制中学校が発足し、戦後の世の中は混沌と食糧難で校舎設備、校庭、体育施設用具等不十分な悪環境であったが、中学生のスポーツに対する情熱は目をみはるものがあつた。

この情熱は生徒・教師が「師弟同行」を実践の場として行い、昭和23年度に中学校16校の体育担当教員をまとめて、川崎市中学校体育指導者連盟として発足した。

当時陸上競技大会は現在の競輪場で行われていた。終戦後の荒廃のまま放置されて使用に堪えない状態であったが、近隣の各中学校から教員・生徒を動員し、雑草刈りや土地ならしを行ない競技大会を行った。

駅伝においては市役所前から登戸紀伊国屋横折返し8区間で行い、当時

の先生方もコース全般の選手の配置工夫と交通の安全面で踏切りを渡るために通過する電車の時刻まで調べていたと云われる。昭和25年体育指導者連盟から中学校体育連盟と名称を改め、強力な指導態勢の形をとり総合球技大会、駅伝大会を中心として種目も多岐にわたり、会場も市内全域で使用されるようになった。昭和42年から総合体育大会と改称し、陸上競技大会は等々力陸上競技場で、駅伝大会は多摩川サイクリングコースを使用し種目も16種目得点制で全種目総合点で総合優勝をきめている。中体連が果たした役割は、人間陶冶とスポーツの発展に寄与してきたものと自負している。今後とも体育・スポーツを通して心身共に健全な中学生の育成に努力していきたい。

〒211 中原区下小田中 690  
連絡事務局

市立中原中学校内  
(722) 3396  
川崎地区  
高等学校体育連盟

高校教育の一環として昭和28年川崎市高等学校体育連盟(以下市高体連)設立。当時の市内高校数は、公・私立合せて9校で、2、3の種目が試合交流をしていたにすぎなかった。現在のNHKラジオ体操柳川氏、新城高校長、現会長柴田氏、産文館長山中氏等が中心となり、県高体連とは別個に設立した。昭和30年の神奈川県体時、川崎球場でのマスケーム大会参加もこの組織があったからである。

市体協への加盟は、昭和34年で、当時種目協会とは個々に運営・技術面での交流はあったが、ようやく軌道に乗った市高体連の参加が認められたわけである。

昭和46年、県高体連はやっと地域の組織的活動に注目し、すでに20年の歳月を経た川崎の組織をモデルとして、県下を6地区にわたった地区高体連を制定した。従って名称は発展的解消、県の組織下の川崎地区高体連として生れ変わった。

人口急増で高校増設は急ピッチを告げ、公私立27校、定時制を含めて加盟は今年度35校でさらに増加が予定されている。現在少ない部を除き、専門部数は16で、主催試合と市民大会等、共催試合ともに年2回の地区大会に参加でき、全国的な活動では、法政二高、向の岡工高などがあげられる。

市高体連誕生以来、30年の成長の過程には、市教委、市体協の物心両面にわたって、他地区に例をみない援助があったことに感謝し、今後の発展を期して本高体連の紹介とする。

連絡事務局  
〒214 多摩区宿河原  
県立多摩高校内  
(911) 7107  
空手道連盟

当連盟は昭和46年に設立され、今年で11年目を迎えた。

現在、連盟加盟団体21支部をもって組織されている。昭和52年より市民空手道大会も開催できるようになり、最近では少年少女の参加が多くなってきた。一般に空手道はどうしても危険な武道としてみられがちで、練習生の年令が制限される傾向があるが、基本通りに行えば決して危険ではない事が理解していただけるスポーツである。

昨年より空手も国体の正式種目になり、市民権を得たスポーツとしての道を歩んでおり、そのため石川記念武道館や地域のスポーツセンター等で

指導される先生方も熱の入った「空手教室」を開いている。教室では技術だけでなく礼儀作法も併せて指導するなど配慮している。さらに市民大会や各種の大会に備えて審判講習会・技術指導講習会を数多く開いている。

昨年の国体には川空連より1名の代表選手が出場したが、これからも後に続く選手を出すべく、技術と精神面の修練に努めていきたい。



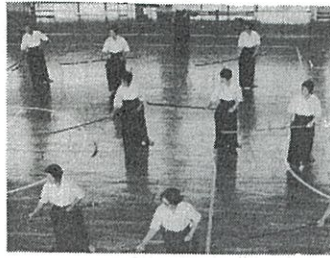
そして空手道の良さを多くの方に理解してもらい、空手人口を増やすため役員一同、一丸となって頑張っていきたい。

連絡事務局  
〒214 高津区子母口 976  
森 明夫方  
(755) 7017

### なぎなた連盟

当連盟は昭和54年5月1日に市立石川記念武道館に於いて連盟結成大会を開催して誕生した。

その前1年間、市教育委員会主催のスポーツ教室(1回15時間20回)を2回開催して頂き、修了した主婦が約50名残り引続き自主的になぎなたを練習したいというこ



とで連盟結成の運びになった。

以来、続いているスポーツ教室と共に会員も増加し現在100名余りとなり、少女(小中学生)も15名を数え、ようやく他の4市(鎌倉・横浜・横須賀平塚)の会員とも肩を並べて多くの大会に出場できるようになった。

初回のスポーツ教室以

来、熱心に指導して頂いている堤敏子教士と市川純子四段を中心に、会員は毎週火・水曜日をきびしい中にも楽しい練習を続けています。

今年は県体協主催のスポーツ指導員養成の講習会にも18名参加しており、だんだんに地盤を固め市民の会員増強に大きく力を発揮しているものと期待している。

来年の国体正式参加を控え、今や意気軒昂で北部と南部にもクラブを作りたいと願って日夜精進しているこの頃です。

そして婦人の生涯スポーツとして健康の許す限り努力していきたい。

連絡事務局  
〒214多摩区三田2-7  
1-3-401 磯谷文子方  
(922) 1459

### ゲートボール競技の紹介

もう既にゲートボールという言葉は、耳なれていくことと思う。

よく街の中の小公園や休日の校庭などで、高齢者の方々が熱心にゲームをしている光景を見かけることがある。

しかし、そのゲームの内容や謂われについてはあまりよく知られていないのが現状のようである。

ゲートボールは一口で云えば、文字通り金属製の小さな三つのゲート(門)に、柄の長い木槌(スティックという)で木製のボールを打って順々にくぐらせ、最後にコート内の中央にあるボール(金属製)に当てる競技である。そして紅白の二組各5人ずつのプレイヤにより、一定の時間内(30分)に早くゴールに到達することを競うものである。

ゲームの勝敗は両チームの総得点の差により決定されるが、同点の場合は、もっとこまかいルールにより判定がなされる。

ゲートボール競技の生い立ちには、太平洋戦争中にフィリッピンのモンテサルバ捕虜収容所に収容されていた人達が、その中でスポーツとしてやっていったものを、後に日本に帰ってから披露したことから始まったといわれている。

さて、国内では昭和22年12月に、北海道においてゲートボールと名づけられて、スポーツとしてスタートした。命名者は鈴木和伸氏という方で、氏のねらいは終戦後の荒れはてた社会の中で、ひもじさに耐えながら生きてきた子供達に健全なスポーツを与え、それにより少しでも彼等の明るさを取り戻せたらという願いをこめたものであった。

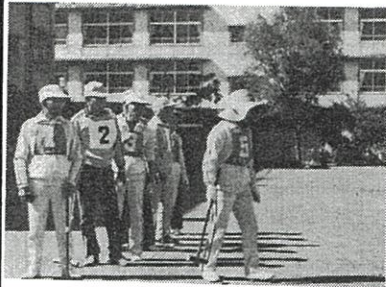
ところが現在多くの人には、それがあたかも高齢者のためのスポーツと思われ、親しまれているのは皮肉なことであり、全く当初の意図したことに反する誤解と云わざるを得ないであろう。

さらに強いて云うなら老若男女を問わず大衆向きなスポーツとして解すべきであろう。

昭和23年よりレクリエーションスポーツとして最適であるとの評価を受けて、各地で講習会等を通して指導者や審判員の養成が行われている。

普及がふかまるにつれて問題となってきたのは専用のコートがほとんど無く、講習会やゲームを行うための会場さがしに苦慮しているのが実情のようである。

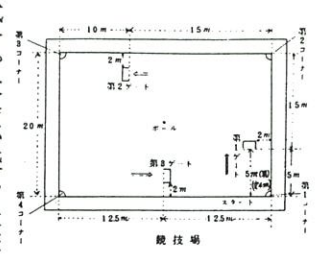
話はまた元へ戻るが、その後も研究が重ねられ昭和28年に関係者によりゲームの規則や用具の工夫改良がなされ、特にコ



ートの広さなどは当初20m×15mのものが各辺とも5mづつ拡張されて、現行ルールに落ち着いた。現在、比較的さかんに実施されている地域としては、鹿児島・熊本をはじめとして静岡・神奈川・東京・埼玉・石川・福島・秋田・青森等々の各都県が挙げられる。

その愛好者人口は300万人を越えるともいわれ、年令的には一部ジュニア部門をのぞき、60歳から70歳代の層が厚くなってきた。

ちなみに本市でも各区内の夫々の地区で、親善



試合や大会が盛んに実施され、年々愛好者が増えつつある。

近い将来全国的な公認競技種目として採り入れられ、やがては国体や国際的な競技大会の種目として位置づけられることを目標にして関係者は努力している。

とにかくゲートボールは高齢者の方に適したスポーツであるばかりでなく、家庭ぐるみで出来る男女年齢差なしのレクリエーションスポーツとして、適度の運動量とチームワークを必要とする等々いいことづくめのファミリースポーツではないだろうか。

スポーツ今昔

東芝スポーツ

(其の三)

女子バスケットボール部

昭和22年東芝女子バスケット部が創立され、8年目を迎えた昭和29年第21回女子全日本総合バスケットボール大会に、皇后杯獲得の偉業をなし遂げた。



この原動力は、久野常務取締役の職場体育に対する、温い理解と情熱以外に何物もない。本大会は昭和29年1月12日より5日間東京メモリアルホール及び国民体育館を中心として開催され、全国から選ばれた実業団、一級クラブ、大学高校の精鋭20チームが参加し、東芝女子チームは決勝で宿敵三井生命を47-38で破り、輝く皇后杯を獲得した。

1月13日成績は次の通りであった。

東芝 51	24	26	39	日紡
1月14日	27	13	13	山崎
東芝 50	15	18	31	浦和
1月15日	35	13	13	一女
東芝 36	22	9	32	北芝
1月16日	14	23	23	プクラ
東芝 47	16	16	38	三井
1月16日	31	22	22	生命

優勝戦は1月16日12時40分より5千人の見守る両国メモリアルホールで行なわれ、NHKのラジオとテレビで全国に放送された。前半三井生命は関東実業団同志でお互によく知りつくしたチーム故に戦いにくく、16-16と接戦又接戦、後半は攻守一体となって勝利をおさめた。本大会で、古川妃砂子、清水輝子、大蔵和子が全日本女子優秀選手として表彰された。(次号につづく浅野記)

スポーツ施設の

ご案内

この欄では市民のスポーツ・レクリエーション愛好者のためにスポーツ施設を紹介いたします。主な公共スポーツ施設として次頁の表にまとめました。

それぞれの施設や種目によって多少申込方法等がちがいますので、申込方法や料金等の詳細については先方の施設や事務所等へ問い合わせてください。



施設名	区別	川崎区	幸区	中原区	高津区	多摩区
体育館		川崎市体育館 200-3255				
武道館			石川記念武道館 544-0493			
野球場		桜川, 小田 大師, 池上新田 富士見, 市民広場 中瀬第1 中瀬第2 鈴木町 大師河原 ※大師少年 ※印は大師公園事 務所276-0050へ	御幸 ※小向野少年A ※小向野少年B 古市場 ※小向少年 ※印は幸区市民連 絡係555-3111へ	等々力 上丸子天神第1 上丸子天神第2 上丸子天神第3 上平間 上丸子山王町少年	宇奈根第1 宇奈根第2 二子第1 二子第2 瀬田少年 諏訪第1少年 諏訪第2少年 諏訪第3少年 二子第1少年 二子第2少年 二子第3少年 宮崎第4少年	虹ヶ丘少年 南生田少年 三田少年 ※稲田少年 菅少年 ※印は多摩区市民 連絡係933-3111へ
陸上競技場		富士見	古市場	等々力	宇奈根	
庭球場		大師(2面) 富士見(10面)		等々力(8面)		鷺が谷池(1面)
サッカー場				等々力, 上平間	北見方(少年用)	
ラグビー場				等々力		
バレーボールコート		富士見(2面) ※大師 ※印は大師公園事 務所276-0050へ		上平間ガス橋下 上丸子天神町		
弓道場		富士見弓道場				
相撲場		富士見相撲場				
プール		大師(2面) 富士見児童(3面) 小田児童(2面)	小倉西児童(2面)	平間児童(3面) 等々力(3面)	鷺沼(5面) 866-0334 市民プラザ(2面) 888-3131	稲田児童(1面)
フィッシング・コーナー				等々力		
申し込先		南部公園事務所 222-5494 (国鉄川崎駅よ り市バス労働 会館前下車)	中部公園事務所 733-5740 (国鉄武蔵小杉駅より市バス中, 原市場前下車)	西部公園事務所 777-2551 (国鉄新城駅よ り市バス子母 口小入口下車)	北部公園事務所 933-2511 (小田急丘ヶ丘 遊園駅より小 田急バス専修 大学前下車)	

(注) なお予約申込みについては、一般用野球場は毎月5日、少年野球場については、毎月1日に、またテニス、バレー、サッカー、ラグビーは毎月10日の午前9時から翌月の予約を申込順で抽選の上、うけつけます。  
ただし、受付日が、日曜・祝日の場合は翌日に受け付けをし、電話による予約申込日の翌日9時から受け付けます。また野球場、庭球場の利用については登録制ですので、まえもって公園事務所にチーム登録をしてから予約申し込みを受け付けますのでご注意ください。

広報委員会名簿

氏名	所属団体	氏名	所属団体
◎浅野浩志	スケート	名取治昭	バスケットボール
○上野富夫	剣道	山本信義	スキー
佐々木芳高	庭球	佐々木孝治	バドミントン
新藤正幸	水泳	前田修二	サッカー
古谷保	卓球	◎委員長	○副委員長

編集後記  
「スポーツ川崎」も試行錯誤の中で、皆様のご協力により三年目を迎えることになりました。今後とも親しまれる「スポーツ川崎」に育てるために、よろしくご指導の程お願いします。今年度の「スポーツ川崎」の編集委員は次の通りです。